

【トップは語る】片倉工業 新たな事業創出へ提携、M&A駆使

2017.3.21 05:00

□片倉工業社長・佐野公哉さん(62)

--昨年12月末で終了した5カ年の中期経営計画「カタクラ2016」の評価は

「成長事業への転換と新規事業の創出を基本戦略として策定した。『転換』については不動産で計画を達成したが、医薬品と繊維の不振もあり不十分だ。『創出』も立ち上げに時間がかかった。このため売上高、営業利益とも数値目標を下回った」

---一方で収穫は

「それまで社外に開示してこなかった中計の策定に当たり、社訓、創業家(片倉家)の家憲、2代目社長の今井五助翁遺訓をよりどころに、引き継ぐべきエッセンスを集約し、今の人にも分かりやすいように経営理念、経営ビジョンを新たに作った。当初は社外への情報開示に戸惑いもあったが、協議に参加したのはこれから牽引(けんいん)する課長や主任がメインだったので意識改革に結び付いた。これが一番の収穫で、新しい中計に生きた」

--新中計「カタクラ2021」がスタートした

「中身は充実しており、メリハリもつくようになった。不採算事業は18年度をめぐりにビジネスの縮小・撤退も視野に入れる。一方、重点戦略分野は各事業の横串を刺して融合を図るとともに、他社との業務提携やM&A(企業の合併・買収)を駆使し、新たな柱となる事業を創出する。確度の高い計画を作ったので売上高566億円、営業利益52億円、営業利益率9.2%を達成させる」

--事業の多角化にはこれまでも取り組んできた

「祖業の製糸業でトップメーカーになれたのはM&Aの歴史があったからで、そのDNAを持つ。創業家の家憲にも『進取』の文字が出てくるが、この精神を受け継ぎ、時代の変化に対応しながら新規事業に取り組んできた。カタクラ16、21とも社員から成長の芽を募集しており、成長事業への転換と新規事業の創出を加速させる」



【プロフィール】佐野公哉

さの・きみや 明治大農学部卒。1977年片倉工業入社。2010年執行役員、13年常務取締役、15年3月から現職。山梨県出身。

 Copyright (c) 2017 SANKEI DIGITAL INC. All rights reserved.